洗濯セット

1．洗濯板と洗濯たらい（体験用）…明治時代から普及したものです。両面に彫った溝は、表裏で細目と荒目になります。上部の窪みには洗濯石鹸を置きました。洗濯物を板の上に置いて片手で押さえ、もう片方の手で溝にこすりつけて汚れを落とします。

洗濯たらいは、大事な嫁入り道具の一つで、大、中、小を１セットにして持参し、大、中のたらいで着物、小さいたらいでオシメや下着を洗いました。

2．炭火アイロン（体験用）…熱源に炭火を使用するアイロン。そのためエントツが付いています。上部の蓋が開き、中に炭火を入れてあたためます。通気口から燃えかすがこぼれ落ち、衣服を焦がしてしまうこともありました。

3．こて（体験用）…着物のエリなど部分的なしわ伸ばしや、折り目を付けるために使います。先端のプレートを、火鉢などの炭火に入れて熱しました。

1．洗濯板と洗濯たらい（体験用）

2．炭火アイロン（体験用）

3．こて（体験用）

明かりセット①

4．火打金と火打石（体験用）…発火用具。火打ち金（がね）を火打ち石で叩くことによって、火花を散らし、それを火口（ほくち）に落として火種とします。火打ち金を東海地方では「火打鎌」と呼び、板をつけて使いやすくしたものが「板付鎌」です。火打ち石は地方によって様々な種類の石が使われ、岐阜では金華山のチャートを使っていたといわれます。ただし割れやすいため、当館では揖斐川のチャートを用意しています。また、使用の際には目を保護するために、ゴーグルを用意しています。

5．付木と火口…火口は、植物の消し炭の粉末や綿屑で作った燃えやすいもの。付木は先端にイオウがついており、火種に近づけて着火させ、炎を起こしました。

4．火打金と火打石（体験用）

5．付木と火口

参考資料集［6］明かりセット②

1．行灯（体験用）…行灯（あんどん）は中央に置いた皿に菜種油を入れ、灯心をひたして火をともします。行灯は当館で準備してあります。菜種油は仏壇店などで購入できますが、植物性サラダ油で代用することもできます。

2．手燭（体験用）…手燭（てしょく）は主に屋内で移動するときに使用するものです。

3．がんどう（体験用）…屋外で移動するときに使用する照明具で、現在の懐中伝統と同じく一方向を照らすのに向いています。中のロウソクは、二つの回転する輪の上にのせてあり、上下左右に動かしても、常に水平を保って倒れることがありません。

4．弓張り提灯（体験用）…屋外で移動するときに使用する照明具で、現在のランタンと同じく四方を照らすのに向いています。文字や紋を大きく描くことで、夜間、だれがやってくるか明示する意味もありました。

5．石油ランプ（体験用）…家庭用の灯油を入れて火をともします。ほやの部分のガラスは特に薄いので、使用の際は破損に注意する必要があります。また、内部がすすで汚れやすく、それを掃除するのは、狭い口から手を入れることができる子どもの仕事でした。

1．行灯（体験用）

2．手燭（体験用）

3．がんどう（体験用）

4．弓張り提灯（体験用）

5．石油ランプ（体験用）